

E-2 : 専門業務

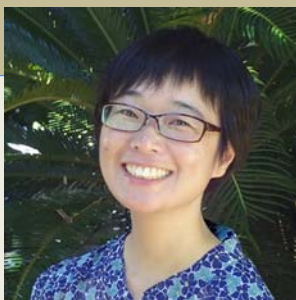
開催日時・会場 9月20日（木曜日）9:00-10:30 401(4階)

SDGsのその先へ ～社会とアカデミアの応答を生み出すための5つの質問～

今年的人文・社会科学系URAネットワークは、宇宙研究とコラボ企画！ 国連サミットによって採択された持続可能な開発目標(SDGs, Sustainable Development Goals)の達成に向け、科学技術の役割(STI for SDGs)が期待されています。このSDGs達成においても人文・社会科学を含む複数の分野・領域の学際的な協働が不可欠であるとされていますが、民間企業に比して、大学等のアカデミアにおける対応は端緒についたばかりといえるでしょう。そこで本モーニングセッションではSDGsの達成に向けて、アカデミアやリサーチ・アドミニストレーターが果たす役割について考えるため、自然科学と人文・社会科学・芸術を横断する視点—リベラルアーツの重要性を説いてきた理論物理学者 佐治晴夫氏(大阪音楽大学客員教授、美宙(MISORA)天文台長)をお招きし、「未来とはなにか」、「持続可能性とはなにか」、そして、未来社会へ向けたアカデミアの可能性についてディスカッションしたいと思います。

セッション開始前の午前8時半から、佐治晴夫氏と数学者の桜井進氏が監修し、2015年の国際科学映像作品フェスティバルでグランプリを受賞したプラネタリウム番組:「宇宙はなぜ美しい」を特別上映します。RA協議会2日目の朝、コーヒーを片手に、分野や立場を超えて様々な人やアイデアをつなぐために大切なこととは何か、一度立ち止まって、一緒に考えてみませんか。本セッションは、人文・社会科学系研究推進フォーラム運営ネットワーク(大阪大学、京都大学、筑波大学、琉球大学、早稲田大学)がオーガナイズします。

オーガナイザー



高橋 そよ : 琉球大学 研究推進機構研究企画室 上席URA

博士(人間・環境学)。京都大学大学院人間・環境学研究科修了後、米国・東西センターの客員研究員、国際NGOのプログラムオフィサーなどを経て、現職。現在は琉球弧を舞台とした人社系や学際的研究を推進するため、分野や立場を超えて人と人をつなぐ研究支援に取り組む。素潜り漁師に弟子入りして20年目。著書『沖縄・素潜り漁師の社会誌—サンゴ礁資源利用と島嶼コミュニティの生存基盤』(コモンズ)など。



佐々木 結 : 京都大学 学術研究支援室 URA

博士(政治学)。神戸大学大学院国際協力研究科修了後、2007年から国際協力機構(JICA)インド事務所にて、日印のNGO、専門技術者、研究者をつなぎ各種ODA事業をファンリテート。2016年から現職。人社系研究者の支援、人社系研究の海外に向けた可視化への取組みのほか、外国人研究者支援など、言語や文化の壁を超える研究の支援に取り組む。

講演者

佐治 晴夫 : 大阪音楽大学 客員教授 /
美宙 (MISORA) 天文台 天文台長 / 鈴鹿短期大学 名誉学長



理学博士(理論物理学)。東京大学物性研究所、玉川大学教授、鈴鹿短期大学学長などを歴任。現在、同大学名誉学長。大阪音楽大学客員教授。美宙天文台台長。無からの宇宙創生に関わる「ゆらぎ理論」で知られ、それを「ゆらぎ扇風機」などの家電製品に応用、NASAのボイジャー計画では、地球から宇宙へのメッセージとしてバッハの音楽の搭載を提案、宇宙研究の成果をリベラルアーツとして平和教育の一環と位置づけ、活動を続けている。

柴田 孝博 : 科学技術振興機構 経理部 部長



民間企業を経て平成16年10月科学技術振興機構入社。情報企画調整室、情報提供部、情報企画部、経営企画部、「科学と社会」推進部を経て、平成30年7月より現職。平成27年1月から平成30年6月までの3年半、「科学と社会」推進部において、サイエンスアゴラや未来共創イノベーション活動支援等を通じ、「科学と社会の関係深化」に従事。

小定 弘和 : 公益財団法人日本宇宙少年団 副事務局長



2003年宮城大学事業構想学部卒業。同年財団法人日本宇宙少年団教育普及部団員サービス室に着任。全国約2500名の青少年が登録する日本宇宙少年団活動において各地の分団の結成支援や青少年向けの教材制作、宇宙教育プログラムの企画運営などに従事。2010年からの3年間は招聘職員としてJAXA宇宙教育センターの社会教育支援業務を担当。2014年より現職。宇宙兄さんズとして著書に「惑星MAPS ～太陽系図絵～」(誠文堂新光社)